

令和4年度第2回伊豆の国市行財政改革推進委員会 議事録

次のとおり令和4年度第2回伊豆の国市行財政改革推進委員会を開催した。

日 時	令和5年2月15日（水）午後1時00分から午後2時15分まで	
場 所	伊豆の国市役所伊豆長岡庁舎3階第5会議室 (伊豆の国市長岡340番地の1)	
出席した委員	小泉 祐一郎（議長兼議事録作成者、オンライン参加） 杉山 武博 鈴木 由紘 中野 歩 松下 泰孝（議事録署名人） 吉川 匡則	(以上7人)
欠席した委員	なし	(0人)
出席した事務局	総務部行政経営課長 塩谷 敏之 総務部行政経営課行政係長 内田 成重 総務部行政経営課副主幹 曾根原 佳子	(以上3人)
出席した関係者	なし	(0人)

### 1 開会

事務局が令和4年度第2回伊豆の国市行財政改革推進委員会の開会を告げた。

### 2 会長あいさつ

小泉委員が会長の挨拶を行った。

発 言 者	発 言 内 容
会 長	それでは、議事進行にご協力をお願いいたします。 委員の皆さんの積極的な発言をよろしく申し上げます。

### 3 議題

事務局が、伊豆の国市行財政改革推進委員会条例（以下「条例」という。）第8条第2項の規定により会議の議長は会長が行う旨を告げた。

会長が、伊豆の国市行財政改革推進委員会運営規程第13条第1項の規定に基づく議事録署名人に松下泰孝委員を指名した。

(1) 第3次伊豆の国市行財政改革大綱 後期行動計画（素案）について

会長が『第3次伊豆の国市行財政改革大綱 後期行動計画（素案）について』を議題として提起し、事務局が資料1に基づいて説明を行った。

発 言 者	発 言 内 容
会 長	まず、後期行動計画の内容について、ご意見をお願いしたい。
委 員	各課から集めた取組をこのようにまとめたということでしょうか。
事 務 局	各課から挙げられた行財政改革に関する取組をまとめたものになる。
委 員	庁内の課でこの中に加わっていないところはないという理解でしょうか。
事 務 局	一部の課では業務に関連する取組がないところもあるが、基本的には1つの課で1つ以上の取組を挙げている。
委 員	前期行動計画と同じ取組ではなく、新規の取組の割合はどのようになっているか。
事 務 局	割合では出していないが、取組項目ごとに「前期計画」の欄に「新規」と記載されたものが新規で掲げたものになる。
委 員	前期行動計画の進捗を見た上で、より実効性の高いものになっているという理解でしょうか。また、SDGsを踏まえて取り組むということだが、どのように読み取ればよいか。
事 務 局	SDGsの目標と今回の行財政改革の取組を比較してみたが、すべての取組がいずれかのSDGsの目標に当てはまる訳ではなかった。
委 員	総合計画の7本の柱の1つに行財政改革が入っているが、7本の柱をそれぞれの部門が進めようとするものを、効率よく進めるとか実効性が上がるようにするとかそういった意味も含めて、行財政改革という位置づけで設計されているという認識でしょうか。それとも7本目の柱だけやっているという認識か。 記載されている具体的な取組が総合計画に入っている内容と重複している部分がある。総合計画と連携してくる部分はあると思うが、今の認識でよいか確認したい。
事 務 局	今回挙げている具体的な取組は基本方針7に該当する取組だけではない。例えば、災害情報の発信は基本方針6に該当する。行財政改革の取組としても進めることで結果的に基本方針6がうまくいくということになる。
委 員	その場合、評価はどちらで行うのか。総合計画の内容が達成できていることを評価するのか、できるようになるためにシステム化や仕組みを作ったことを評価するのか。結果的にうまくいったからといって、システムのお

	陰ではなかったら行財政改革としてはNGになるが総合計画では「○」となると、行財政改革では評価がしにくくなる。行財政改革は仕組みやツールの話だが、成果は総合計画となると、評価には注意が必要。行財政改革から見た目的になっていた方が良い。
委員	市民ニーズの把握が一部に限られてしまうと間違ったニーズになってしまう。ニーズの把握について工夫される点があれば教えてほしい。
事務局	無作為抽出によるアンケート調査は効果的と考えている。モバイル端末を利用したアンケート調査も始めており、後期行動計画の中では声を聴く手段の1つとして考えている。また、パブリックコメントのルール付けを令和2年度に行い、令和3年度から始めている。市民から意見を得られる取組を考えていかななくてはならない。
委員	企業版ふるさと納税の強化策として、こういった取組をしているか。
事務局	昨年度は企業の決算期に合わせてお知らせを行った。現在、商工課でどのような取組を行っているか把握していない。
委員	進捗の状況がわかりにくい。市民が見てわかりやすいよう、数字で示すことができるとう良い。具体的な取組は定性的な記載ばかりで、定量的なものは参考指標でしか見られない。計画の中でもデジタルやSDGsの取組がわかると良い。 職員力の強化について、人財育成として必要な取組は、メンタルの取組、OJT、提案制度だけではないはず。柔軟な働き方にしても、育児休業以外にも介護休暇もあるのではないかな。計画にもっと厚みを持たせるようにした方が良い。
委員	達成状況がパッと見てわかる方が良い。絵に描いた餅になってしまわないか。 職員力の強化のアウトカムだけ悲しい感じがする。目標に掲げるのであれば前向きなもので、定量的な達成の状態がわかるものの方が良い。
会長	9ページの耕作放棄地の取組などは前期行動計画にも載っていたが、行政改革として重要なことは補助金の制度を見直すことではないか。耕作放棄地の解消は総合計画の目標であって、ここで重要なのは改革の取り組みとして「何をするのか」はっきり書くこと。 政策マターになってはいけない。ワクチンの個別接種をいくつやったかではなくワクチン接種の体制ができたかどうか、改革の取り組みとして何をやったかが大切。一部の取組の書き方に総合計画のような政策中心の記載

	<p>がある。改革の取り組みとして何をやるのかを明確にしてほしい。</p> <p>アクションプランや行動計画は、行動の項目やキーワードを出して関係課に考えさせ、計画にしっかりと位置付けるもの。今回の計画に記載されたものは「具体的な取組」というよりは「主な取組」であって、ここには載っていない取組がどんどん出てくるくらいの方が良い。</p> <p>進捗についても項目ごとに事情は異なるが、個々の取組ができたかどうかと各取組項目の参考指標のレベルは異なる。市全体の計画なので、そのあたりの違いや意味合いが市民にも分かるように示せたら良いと思う。</p>
委員	<p>抜け漏れが多くないかと思う。積極的な情報の公開は財務課だけではないはず。「もっと積極的にオープンデータを進めていきましょう」という上位概念があるのであれば、「もっと出さないと駄目でしょう」というものが出てくるのではないか。全部を積み上げると大変であるが、どういうふうに整理していくのか気になった。</p> <p>ICTは大きな軸かと思うが、ICTの取組は2つしかない。効果的な行財政運営にもICTが出てくるので、ICTとそうでないもので分ければわかりやすいのではないか。</p>
会長	<p>これから進めていくうえで、どのようにしたらよいか。また、皆さんのところではどのような工夫をされているか、どのようにしたらうまくいったか意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>達成後の状態に対して具体的な取組が出てきているかと思うが、なぜやるかを職員で共有できたら良い。市民、職員、庁内で何が起るかを共有してもらいたい。</p>
委員	<p>情報の伝え方、広く伝える方法として、相手に応じて、相手の目線に合わせて、わかりやすく伝えること。</p> <p>巡回を行って、会話の中からニーズを拾うこともある。パブリックコメントも情報を公表して終わってしまうのではなく、市民にも動いてもらえるような周知の方法が必要。</p>
委員	<p>同一事項や関連のある事項・事象について、協議する場を設ける。同業者から遅れていることもある。協業・同業となると、近隣の行政となるが情報を共有して進めてほしい。</p>
委員	<p>なぜやるか、理解の促進が必要。何を見て仕事をしているのか。仕事の目的につながってくることであるが、自分で動くためには、腹落ちさせないといけない。腹落ちしていない仕事は作業。</p>

	<p>行政の人と話をするとう「どうせ2～3年経てば異動しますから」という感覚の人も多い。行政の特徴かもしれないが、専門性を高めようという気がおきにくいのではないか。給料や職場環境など自分の人生を豊かにするのが人事制度であって、会社の風土は人事制度にもよる。自分が何をやったら認められるか、評価されるか、そういったところがしっかりしている方が職員のやる気にもつながる。仕事の目的の理解度を上げていくのも人事制度なのかもしれない。</p>
委員	<p>参考指標がバラバラで、これが達成したからどうなるかが市民には分かりにくい。この取組の結果、どれだけの時間外勤務の削減につながったなど、統一した指標があれば、市民の理解も得られ、取り組む側もわかりやすいのではないか。</p> <p>断捨離的な思考で削ぎ落としながら新しいことに取り組んでいく。断捨離的な取組の効果が労働的な時間であったり予算的な数字であったり、そういった統一的な指標で分かると良い。削減した労働時間を使ってこういったことができました、というところまで説明できたら市民にも伝わり効果もわかってもらえるので、考えてもらいたい。</p>
会長	<p>それぞれの部署で取り組んだことで優れたものについて役所内で情報共有をしたり、事例発表会をやったり、改革の機運を上げるということでは、行政改革には勢いや熱量が必要なところもある。機運を上げていくというところでは表彰をすとか、発表会で紹介するとかが考えられる。</p> <p>計画に載っていないことをやり出すこともある。実績を求めるときは計画に拠らなくても良い。計画どおりの実施ばかりを意識すると硬直的な発想になる。計画どおりにできたかどうかではなく、実現しようとするのが達成できたかどうか。やり方を変えてやってみましたという実績報告でも良い。役所はこのとおりにできるだろうということを見越して計画している部分もある。どんどんやっていくということを促すことに計画を使っただけのことが大事かなと思う。実績報告のときに計画とは違うがこんなこともできたということがある方がいい。</p>

#### 4 閉会

事務局が令和4年度第2回伊豆の国市行財政改革推進委員会の閉会を告げた。

令和5年3月8日

議長（会長） 小 泉 祐 一 郎

議事録署名人 松 下 泰 孝